

血と雫 *je prie pour que la goutte ne tombe pas*

グループ名の意味と到る過程

September 13, 2012 / text : 森川誠一郎 (血と雫 *je prie pour que la goutte ne tombe pas*)

"その雫が落ちないことを祈る"

je prie pour que la goutte ne tombe pas

フランス語の部分にあたる意味、「その雫が落ちないことを祈る」は、宮沢賢治の「過去情炎」という一編の詩から引用したものです。実際のオリジナルテキストでは、「その雫が落ちないことをねがふ」なのですが、願う、祈るの違いはともかく、グループ名を決めるにあたり、念頭にはこの言葉が先ずありました。

"血と雫" 数年前に書いた散文より

木末《こぬれ》から雫落ちるかたわれ時のこと。己に睡臥《すいが》する主を揺り起こそうと、忌まわしい功德を羽織り瞑想に嵩じていた。渴きは木末の雫により潤いをもたらし、主は掌のくぼみに雫を溜めた。己は喉笛を開くと、ゆっくりと掌を口元に近づける。だが、其処には凝固した主の血塊が滲んでいた。落日である。

この散文を要約すると、『木の枝からぼたりと落ちる樹の雫を飲み干す為に、両手で雫をすくうように溜める。そうして、溜まったその雫を飲もうとするが、両掌に溜まった雫は、既に固まった自分自身の血だった。』と、という意味合いの散文です。

この散文から「血」と「雫」をカットアップ

血と雫 *je prie pour que la goutte ne tombe pas*

他国語による意味の部分の表記に関して。厳密にはあってもなくても、またフランス語である必然性もありません。発生からの意味を含めたフルネームであるということです。

血と雫 その雫が落ちないことを祈る